

人文研シンポ『人文研を考える』

主題『人文研を考える』という、内容の濃い題を頂戴しどのような話をすればよいのか、経験未熟の私には不似合いな話になりますが、その辺を差し引いて聞いていただければと思います。

(1) 県連&鹿児島県人会 (活性期を迎えてる両団体)

1. 御三家としての役割

定款、他団体、地方、国内、国外＝公的機関等との交流、役割、役目
3 団体 (5 団体) 間の意見統一と、意識の一元化

2. 過去と現在

トップの姿勢、国とか県から見たおかれた立場、留学&研修生、留学生 OB 会、ふるさと創生、一世の役割 (一世から二世の引継ぎ、一世最後の仕事という言葉の意味は)、ブラジル生まれの見識の活用と役割

3. 組織

フェスティバル、故郷めぐり、弁論大会、マレットゴルフ、ゲートボール大会の意味、二期 4 年の理由、浄化作用、委員会の役割と存在、定款にそった役員会と代表者会議と総会並びに臨時総会、会員と地方の参加、起こりうる事故、事件に対する危機意識、縮小と消滅、牽引力
東日本大震災を契機に日本間との組織としての立場の意味

4. 会 (団体) 内部の浄化、自治、会を会社とか個人に置き換えた考え方

5. 収入

会費、委託金、寄付、催し物、宿泊費、収入アップ (預け金利息)

6. 支出

支出削減、必要なもののみの選択、カットできるものは、寄宿舍の自治と 24 時間以内の強制退去 (危機意識)、活性化対応して呼び水として金を使うことの意義

7. 会としての、プロ意識

目的を成し浮気をしない

8. 継承

意識、文化、会としての目的、

9. 議論を含む意見交換の場の提供と汲み上げ

10. 留学生 OB(家族)の組織からの距離と参加意識の欠如

必要であるのか、河原の混石に輝石を待つ、人生の末に思うこと

11. 会として会員に何がお返しできてるのか

(2) 人文研に関して

1. 過去を踏まえての独特な機関としてのプロ意識と顔の見える存在
2. 他の機関との人的、学術的等の交流の再チェック
3. 現状の把握
過去の検証と目的の再確認、作業内容の再チェックによる消却と不可欠の分類、新考察の提唱と導入
4. 参加者、協力者の裾野
5. 事業の興味と催し物（他団体との共催、後援、知名度のアップ）
6. 収入と支出のバランス
会費での運営のチェック（会費だけで成り立つ例は稀）
7. 活性化への呼び水はあるのか
組織役割、資金、人、興味、協力、交流、主催と共催並びに後援
 - a)HP を使ったの諸団体への広報
 - b)
8. これと思われる意見をまとめ、チェックシート方式で、2～3ヶ月毎に意見交換
9. 非営利団体としての利点のチェックと活用
10. 特異な機関としての情報集約